



社会福祉法人 であいの里 さやま保育園
2026年 10月1日

＊＊保育目標 聞法 よくききます＊＊

- ・先生やお友だちのお話をよく聞き、自分の考えも言える。
- ・季節の変化に気づき、自然事象にも興味を持つ。

- 1日 内科検診 2日 未満児おさんぽ参観日
6・20日 礼拝 9日 避難訓練
発育測定(13日 あひる・ひよこ 14日 ぞう・きりん
15日 うさぎ・りす) 19日 クッキー作り
21日 誕生会 26日 わくきら☆スポツチャリハースル
30日 前日準備午後特別保育(園長保育なし)

31日 わくきら☆スポツチャ(富士商ドーム 8:30 開場)

※ほし組 各小学校にて就学時健診



【法話】 六つの心(迷いの心)

6月から始まった『わくきら！夏あそび』『参観日ウィーク』には、お忙しい中たくさんの方にご参加いただきありがとうございます。子ども達と一緒に保育に参加いただいたり、保育のお手伝いいただいたり、お家の方と一しょに給食をいただく姿は特に、いつも以上にどの子も嬉しそうでした。

私たちはみんな「心」をもっています。でも、その心は、一人一人みんな違います。そして私一人の心でも、一瞬一瞬ひとときも同じ心でいることはありません。

仏教では、六道^{ろくどう}といって、私たちの心は大きく分けて六つに変わると説かれています。

- ・地獄^{じごく}の心(人を責めたりいじめたりする鬼のような心)
- ・餓鬼^{がき}の心(あれが欲しいこれが欲しいという心)
- ・畜生^{ちくじょう}の心(恩や恥を知らない心)
- ・修羅^{しゅら}の心(怒っているときの心)
- ・人間^{にんげん}の心(苦しいことがいっぱい心の心)
- ・天上^{てんじょう}の心(大喜びで自分のことしか考えない心)

の六つです。

私たちの心は、朝から晩まで、生まれて死ぬまで、この六つを繰り返します。これが六道輪廻^{ろくどうりんね}で、私たちの迷いの姿なのです。六道輪廻は、死後の輪廻ではなく、今、生きている時に輪廻しているから、それを迷いというのです。

迷いを迷いと知らずに生きている私たちが、この迷いの世界から出て、さとりの世界へと至る道を、仏教・仏道と言います。

合 掌

1年生へのラブレター

『1ねんせいのみなさんへ みなさんおげんきですか？げんきだったらいいですね。わくきら☆すぽつちゃで かーどめくりをするので きららどーむにきてください。わくきら☆すぽつちゃがおわったら きららこうえんで いっしょにあそびたいな。またほいくえんに あそびにきてね。さやまほいくえん ほしぐみのみんなより』(まわりには、「だいすき」の絵と文字がいっぱいに描かれています。)

昨年のほし組が、卒園した1年生・交流会でお世話になる佐山小学校の1年生と、「玉入れで勝負したい」「1年生と会いたい」という気持ちで、1年生を招待する競技が始まりました。わくきら☆スポツチャでは特に、「かつこよかったほし組」「優しかったほし組」の印象が強く、自分もほし組になったことで、「挑戦してみたい、会いたい」想いが膨らんでくるんだと感ずます。お兄さんお姉さん達を名前呼び合えることが、何よりもありがたい異年齢保育の宝物です。

サークルタイムでやりたい競技を考える中で、今年は昨年保護者の皆さんと対戦した「カードめくり」になりました。この競技を決めたのも、子ども達ならではの想いがあるのでしょう。また、上記のお手紙も、サークルタイムでほし組みんな言葉を考えて、みんなの思いを絵と文字にして、1年生の一人ひとりに届けました。

実は卒園した1年生は、小学校に入学した直後から、「ねえ、今年の“わくきら”ってさあ、僕たち呼ばれるんやろ？」「小学生になったら、玉入れ簡単すぎる！」と、心待ちにしてくれている言葉をいただきました。実は2年生からも、「私たちも出てあげようか？」と、卒園児達が楽しかった思い出、異年齢のつながりを感じる行事として記憶してくれていることを感ずます。そしてこの行事が、保護者の皆様、お家の方々、地域の方々の温かいまなざしの中で行われてきたことが、何よりの子ども達へのラブレターだと感ずています。

